

会 議 録

会議等名	平成28年度第2回富士見市歯科口腔保健推進委員会
開催日時	平成29年3月16日（木）午後1時30分～3時00分
開催場所	富士見市健康増進センター 研修室
出席者名	委員：大渡 廣信委員長、三木 とみ子副委員長、岩橋 真澄委員、 是永 國彦委員、長堀 厚子委員、苗代 明委員、二川 明子委員、 林 英子委員、 事務局：大森健康増進センター所長、 望月健康増進センター副所長、山崎健康増進センター副所長、 村井母子保健係主査、相原健康づくり支援係主査、 担当 駒林、高橋
欠席者名	委員：赤羽 尚子委員、日下部 菜穂美委員、佐藤 公誠委員、田中 浩委員
傍聴者	0名
次第	1 開会 2 委員長あいさつ 3 審議 4 その他 5 閉会
議事内容	
1 開会 2 委員長あいさつ 3 審議	
(1) 歯と口腔の健康に関する事業の取組状況について	
事務局	(資料確認) 資料1～3について 資料1、2は第1回審議会と同様の内容であるが、いずれも新たな数値を入れた項目は網かけ等色を変えてある。資料1に関しては網かけの項目に今回新たに数値を入れた。資料2については青色の部分で乳幼児期の27年度集計結果を記入した。「歯肉に炎症をもつ児童・生徒の減少」には提供していただいた資料に基づき、27年度の集計結果を記入してある。平成27年度学齢期の「歯科保健指導」の実績は15校実施、「歯科健診事後指導」は18校実施、「給食後の歯みがき」は13校実施、「歯科保健活動」については「学校保健委員会」

6校、児童・生徒保健委員会14校実施、「フッ化物洗口・歯面塗布」は小学校1校と特別支援学校で実施となっている。成人歯科健診受診者は前回311人と掲載したが、妊産婦歯科健診受診者が含まれていなかったため、それを含めた450人に訂正している。

委員長

私は埼玉県歯科医師会地域保健部に在籍しているが、富士見市はよくやっていると。更に他の先進地の例も学んで、進めていきたい。フッ化物洗口・歯面塗布は小学校、特別支援学校で実施とあるが、以前から実施している事業なのか。私が校医をしている針ヶ谷小学校と特別支援学校は3年前から実施している。

事務局

平成25年、26年も実施しており、新しく始まったものではない。昨日、歯科医師会と会議をした際、学校教育課長からも話があった。3歳児健診では、その場で親の同意を得てフッ化物塗布しているが、学校では保護者全ての同意を得ることは難しいため、教育委員会として取り組むというところまで進みにくいという報告があった。

委員

昨日、富士見市長と副市長、各課の担当部課長と歯科医師会で今年度の報告と来年度に向けて意見交換を行う会議をした。フッ化物洗口は今のところ無料でできるものではない。諏訪小学校は先月に歯みがき教室を実施した。3歳児健診のフッ化物塗布について、去年4月から希望者に年1回塗布を実施している。近年の事業報告の用紙を参照すると、3歳児健康診断受診児894人中、希望制で実施したのが72.4%で647名。また実施しなかった27.6%のうち9割、25%はかかりつけ歯科医で定期的にフッ化物歯面塗布を受けているため希望しないとアンケートに記載があった。フッ化物塗布を全く希望していない家庭は2.6%だった。結果から見ると、保護者の方は安心・安全性についてはそれほど気にしていないのではないかと。

委員長

私も学校でのフッ化物洗口を7年前に開始した。また県の歯科医師会事業で学校でのフッ化物洗口がある。費用負担は、初年度は全額歯科医師会負担で2年目は3分の2、3年目3分の1、4年目は全額学校負担になるという制度である。費用負担は1年間で4,000円程度で、針ヶ谷小学校の場合、薬剤費とPTA会費から2,000円ずつ捻出している。費用はあまり問題となっていない。熊谷市では、市長がフッ化物洗口に協力的で、市内全小学校で実施した。これは教育委員会が実施した。フッ化物洗口が危険だという意見もあるが、この事業で亡くなった方はいない。針ヶ谷小学校では、洗面台で自分で口をすすいでいる。洗面台の場所といっても蛇口一つあればできる。昔は親がフッ化物について心配し、やらせない人もいたが、今は歯科医院でもやるし、アレルギーもない。

副委員長	熊本市など、全国的にフッ化物洗口はしている。足立区では区長が歯科医師であるため積極的に取り組んでおり、学校給食後の歯みがきとフッ化物洗口を合わせて実施している。教育の一環として実施するのが良いと思う。教育的な意味を感じて、歯の健康づくりとして取り組んでいく。うがいでだけでは、歯肉炎・歯周疾患はよくなる。これは私見であるが、養護教諭や校長先生に対して、間断なく啓発を行うことが効果的である。
委員	健康教育は大切であり、私も埼玉県歯科医師会でこの地区の歯科保健に取り組んでいる。3年前に富士見市でフッ化物洗口に取り組んだ。その際、学校教育の一環として取り組むよう説得した。歯みがきは無料でできるが、薬剤となると無料では難しいという費用面の問題もある。針ヶ谷小学校のように小規模な学校もあれば、ふじみ野小学校のように1,000人規模の学校もあり、市内全域でやるのは難しい。
副委員長	学校でなくても保護者が家庭で取り組むことも大切である。
委員長	フッ化物洗口についての意見が出たが、他の委員はどうか。ライフステージ全体から見ていく必要がある。中学校の校医の先生によると、小学校のうちは真面目に歯みがきするが中学校で取り組まなくなるようだ。
副委員長	中学校で、歯肉炎の罹患率が上昇している。
委員	私が出したデータの説明をさせていただく。健康増進センターが目標として出した「むし歯のない児童・生徒の増加」と「むし歯を治療していない児童・生徒の減少」と同じ項目のデータがあるが数値が異なっている。健康増進センターの数値は乳歯と永久歯が混ざったデータだが、私のデータは永久歯のみである。乳歯はむし歯があるが、永久歯はない子もいるので、私のデータ数値の方が高くなっている。むし歯のない児童・生徒の増加とむし歯を治療していない児童・生徒の減少は毎年データをとっても、あまりばらつきがない。一方、歯肉に炎症をもつ児童・生徒の減少はばらつきがある。目標を定めた平成24年は小学校は高く、中学校は低くなっている。平成24年に小学校5.6年生でデータが高かった子たちが、今中学2.3年生になり高い状態になっている。小学校は小学校、中学校は中学校でずっと同じ校医で実施しており、歯科医によるばらつきは考えにくい。今後年によるバラツキの原因を調べていきたい。小学校で歯肉炎のデータが高いと中学校でも高いままなので、歯肉炎予防の歯みがき指導も重要である。
委員長	年度によってデータは異なっており、要はどう予防していくかが大切。他の委員はどうか。
委員	昨年の夏から半年歯科治療をし、歯の大切さを実感した。こういった計画をとおして、小さい頃からの教育が大切だと感じている。

委員長	ライフステージを通して歯を大事にしていくことが重要。中高年になって歯が痛くなったり、悪くなってからでなく、その前からの予防歯科が重要でありそのための委員会である。子どもたちには親や行政が働きかければよいが、自立したときどうしたらよいか。
委員	小学校は歯科衛生士会での授業があるが、中学校になると部活や勉強で忙しくなり歯医者に行けない状況もある。セルフケアも大事になってくる。中学校でも小学校でのような教育の機会を設けてセルフケアにつなげていけるとよい。

(2) 富士見市の歯科口腔保健の推進について（意見交換）

委員	近年の事業について妊産婦歯科健診と 3 歳児健康診断におけるフッ化物歯面塗布は歯っぴーライフ☆ふじみに基づいて実施している。妊産婦歯科健診については、妊娠届が 1 年間でおよそ 1,000 人出されているのに対し、受診者は平成 27 年度で 139 名、平成 28 年度は今のところ 100 名くらいである。ライフステージ別目標値の資料では妊産婦歯科健診開始前から歯科医院で歯科健診を受けていた方は 33.4%。1 割プラスとなれば目標値の 50%に近づいていく。今後も PR して増えていくとよい。「第 1 回富士見市歯・口の健康啓発標語コンクール」では市内小中学生 8,700 人中、11%の約 900 人から応募があった。教育委員会協力のもと、第 2 回にむけて動き出している。昨年 6 月に歯と口の健康フェアで無料歯科健診を実施している。健康まつりでは、歯科衛生士会と共同して、お口の体操のミニ講座と口腔ケア、吹き矢を実施した。来年度の歯と口の健康フェアでは口腔ガン検診を取り入れる予定である。
----	---

(3) 「要介護者・障がい者（児） 歯科医療機関のごあんない」について

事務局	歯科口腔保健推進計画の中で、今年度は要介護者、障がい者の方の歯科受診について普及啓発を目指しており、市内に 51 ある歯科医院の協力のもとリーフレットを作成した。作成したリーフレットについては今年度中に各公共施設や社会福祉施設、高齢者安心相談センターなどに配布して普及啓発していく。今回の審議会でも、承認をお願いしたい。
委員長	こういうものは以前から所沢や朝霞保健所でも作成しているが、主に障害児についてのものであった。今回は小児歯科や矯正歯科、口腔外科の 3 つが新たに加わった。障がい者の歯科治療については、歯科医師会口腔保健センターやあさか向陽園が入っている。こういうのがあると転入してきた人もわかりやすい。
委員長	今はインターネットの時代であるが、公の機関が作成したということで信頼性もあり良いと思う。ご意見あるか。
委員	両親の介護のこともある。昔はこういうリーフレットがなかったが、こうした一覧表から選べるのは市民としてはありがたい。

委員長	訪問歯科診療についての記載もある。
副委員長	青の番号は歯科医師会の会員か。
事務局	そうである。
委員	富士見市歯科医師会ではお互い意見交換しており、往診や障がい者の診察など依頼があっても自分のところでは難しい方を他の先生にお願いするなど、連携がとれている。
委員	正月など長い休暇の際、歯が痛くなった場合に救急の歯科があるのか。
委員	データを調べたら日曜日に診療しているところは十数件あるが、祝日の診療は4件しかなかった。そのため我々でも輪番制でどこかの歯科医院が交代で診療することを検討している。
(4) 今後の予定について	
事務局	今後のスケジュールは委員の任期が7月31日までになっており、今回が最後の委員会となる。2年間貴重なご意見をいただき、充実した計画となった。また、計画に沿って事業も進めることができた。今後も歯科口腔の充実に努めてまいりたい。4月に入ると事務局も新たな体制となる。平成29年度は5月の広報で新委員の公募をしていく予定である。今日の会議をもって2年間の任期が終了となる。新委員の委嘱状交付式は8月以降を予定している。
副委員長	2年間、どうもありがとうございました。住んでよかった富士見市と思っております。富士見市に親しみを感じて、会議にも出席していた。文科省の頃から学校の歯科保健に興味があり、学校歯科委員会にもいたことがある。今回審議会という切り口から行政も頑張っていると思いき、公募の方からも良い意見を聞くことができた。みなさんありがとうございました。
4	その他 (特になし)
5	閉会